

箱根火山 2015年6月29-30日噴火による降灰分布 (速報値)

箱根火山6月29-30日噴火の降下火山灰に対し、各機関の研究者間で調査データを共有しつつ堆積量の調査を行った。大涌谷周辺の計25点で調査データを得た結果、降灰は大涌谷の北西と西方に方向に広がる分布域を示し、今回新たに形成された火口から約4km遠方まで達する。6月29-30日噴火の噴出量は約40～130トンと推定され、噴火の規模は極めて小規模である。

1. 調査方法

大涌谷周辺では6月29日午前から翌30日にかけて、断続的に火山灰の降下が確認されている。これら降下火山灰の堆積量を、6月30日午後(13:00～18:40)に、定面積法により計測した。計測は、火山灰の堆積状態が良好な場所を現地で選定し、計25点で行った。

2. 降灰分布図(等重量線図)

各機関の研究者間で共有した調査データに基づく6月29-30日噴火による降灰分布は下記の通りである(図1)。

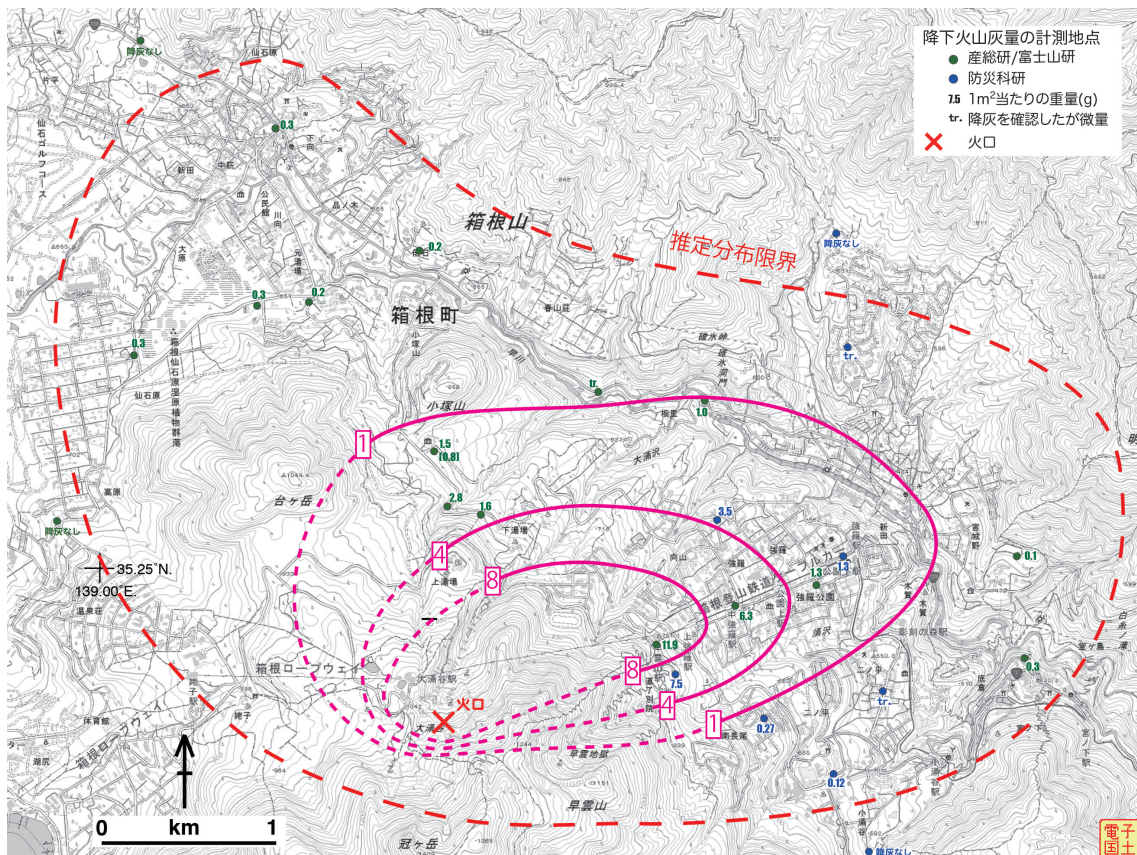


図1 箱根火山 2015年6月29-30日噴火による降灰分布図(等重量線図)。

今回の降下火山灰の等重量線を、計測点の多い範囲に限って8、4、1 g/m²について実線(桃色)で示す。ただし大涌谷近傍は調査データがないことから破線とする。降灰の分布限界は破線(赤色)で示す。

3. 推定される噴出量

今回の調査によって得られた降灰分布（図 1）を用いて推定すると、噴出量（速報値）は以下の通りとなる。

- ・ Pyle 法 : 40 トン
- ・ 早川法 : 80～130 トン

従って、6 月 29 日-30 日の噴出量は速報値として、40～130 トン*と推定される。

今回、箱根火山大涌谷で新たに形成された火口から噴出した量は、御嶽山2014年噴火や口永良部島2015年5月噴火における降下火山灰の噴出量に比べ、3桁～4桁少ない。降下火山灰の規模としては極めて小規模である。

*注) 噴出量の算出においては、火口近傍の火砕丘を含めた堆積量の見積もりが大きく影響するが、今回の速報値では含めていない。

参考文献：

Hayakawa (1985) Bull. Earthq. Res. Inst. Univ. Tokyo, 60, 507-592.

Pyle (1989) Bull. Volcanol. 51, 1-15.

※箱根山降灰合同調査班：

古川竜太 1、石塚吉浩 1、吉本充宏 2、三輪学央 3、長井雅史 3、萬年一剛 4

(1：産業技術総合研究所、2：山梨県富士山科学研究所、3：防災科学技術研究所、4：神奈川県温泉地学研究所)